

二松學舎松苓會報

昭和62年12月1日創刊
平成21年11月25日発行
二松學舎松苓會
〒102-8336 東京都千代田区
三番町6-16 ☎03(3261)7408
振替口座 00180-5-160343
印刷 (株) サンセイ
〒103-0023 東京都中央区日本橋
本町4-11-10 ☎03(5614)2515

平成21年度松苓會總會

初めての6月開催

松苓會事務局長 緑川 佑介

平成21年度の松苓會總會が6月27日(土)の13時から二松學舎大学11階の会議室で開催された。松苓會總會は、例年8月に開催されてきた。しかし、予算の執行などを考慮すると4月以降の早い時期に開催し、事務処理などを円滑にすることが妥当であるとの見地から今年度以降は6月開催とした。



本年度の總會における審議は若干の質疑応答があったが、順調に議事が進行し、報告事は本年度以降も6月に開催する予定であるので各支部長は年間予定に組み込んでいただきたい。

21年度總會は、来賓として佐佐木鍾三郎顧問・大山徳高理事長・渡辺和則学長をお迎えした。出席は全国から22支部の支部長。例年になく時期で調整がつかなかったのか、昨年より5支部少なかった。

項を含め、すべて承認された。出席者は次の通りである。

- 来賓 佐佐木鍾三郎顧問
- 大山 徳高 理事長
- 渡辺 和則 学長

- 本部 神津賢一郎 会長
- 松田 存 副会長
- 平田 雅利 副会長
- 大地 武雄 幹事長
- 緑川 佑介 事務局長
- 磯 水絵 監事

- 常任幹事 丸山祐三郎・畑 功
- 平岡才二郎・小林 憲二
- 源川 進・手島 茂樹
- 奥井 基継・井上 和男
- 五十嵐 清・神河 秀春

- 幹事 山崎 郁紀・小林 公雄
- 小町 邦明・高柳 幸雄
- 小西 明徳・大野 砂織
- 西園 隆士

支部長

- 宮本 義孝(岩手)
- 千葉 仁(宮城)
- 齋藤 裕(山形)
- 北村 博(福島)
- 那花 隼(茨城)
- 新井 喜義(群馬)
- 町田 哲夫(埼玉)
- 辻 将一(千葉代理)
- 木村 正雄(東京)
- 片桐佐和子(神奈川代理)
- 植松 永雄(山梨)
- 関 保典(長野)
- 中道 佳宏(福井)
- 永井 陵次(静岡)
- 上田 善達(愛媛)
- 坂本 和生(高知)
- 永淵 道彦(福岡)
- 黒瀬孝志郎(長崎)
- 加茂 忍(大分)
- 宮崎 宣幸(宮崎)
- 田原迫俊朗(鹿児島代理)
- 金城 健一(沖縄)
- 島山 幸治(順不同 敬称略)

總會は五十嵐常任幹事の司会により、開会が宣言された。その後、例年通り物故者への黙祷から進められた。今年の物故者は、今西幹一前学長、

及び萩谷朴名誉教授の2名である。

会長挨拶の後、大山理事長・渡辺学長の挨拶をいただいた。会長の挨拶では、故今西学長の言葉を引用し、卒業生のつながりを一層強化すると同時に協力をお願いするとの要望があった。

松田存副会長の議長選出の後、書記に小林憲二・神河秀春両常任幹事が任命された。

平成21年度人事異動

- 支部長交代 山梨県支部 新任 植松永雄(31回) 退任 有賀敏彦
- 神奈川支部 新任 廣田克己(38回) 退任 菅 吉四郎
- 群馬支部 新任 新井喜義(37回) 退任 高橋共一
- 静岡支部 新任 永井陵次(38回) 退任 神津賢一郎
- 埼玉支部 新任 町田哲夫(42回) 退任 木村誠次
- 新任幹事会 新任 廣田克己(38回)

議 案 審 議

1. 平成20年度事業報告

緑川事務局長から平成20年度事業報告ならびに支部活動報告があった。

平成20年度の事業では、附属高校創立60周年記念式典があり、神津会長が出席した。

さらに、中国四川省の地震に対して救助活動として募金を行い、送金したことが例年にない内容である。また、松茶会の名前を入れた「祝卒業」「祝入学」の垂れ幕を作成した。

支部総会を開催した支部は北海道・岩手県・秋田県・

埼玉県・群馬県・東京都・千葉県・神奈川県・静岡県・香川県・三重県・近畿連絡協議会。
なお、北海道では地区別の総会も開かれた。

2. 平成20年度収支決算報告・会計監査報告

緑川事務局長から決算報告、磯監事から会計監査報告があった。松茶会積立金について将来の安定的な運営を考慮し、出来る限り積み立てていく方針についての説明があった。審議の結果、異議なく承認した。

3. 平成21年度事業計画案・会計収支予算案

緑川事務局長から、平成21年度事業計画の説明があった。支部運営助成費について今年度の方針を次のように説明された。
①支部運営援助等について活性化を確実にする上で、多くの活動が再建できるよう援助・努力する。
②支部運営助成費について新たに「支部総会開催費」として支部総会開催支部に2万円を助成する。また、各支部分会の開催費として開催分会に1万円を支給する。
引き続き、平成21年度の予算案について説明した。支部運営助成費について質問と要望があった。

右記の件についても審議の結果、異議なく承認した。

4. 奨学金について

大地幹事長から、奨学金の支給要件を見直すとともに、年間3名程度に支給することとしたとの説明があった。審議の結果、異議なく承認した。

(報告事項)

①ホームカミングデー参加依頼
大地幹事長から、平成21年8月2日(日)開催のホームカミングデーへの参加依頼があった。
②支部総会等の本部ホームページ掲載について

緑川事務局長から、大学の協力により、松茶会本部のホームページに支部の総会案内等の掲載が可能なので利用してもらいたいとの報告があった。

③総会等の旅費支給について
緑川事務局長から、経費の有効使用の観点から、旅費・宿泊代等について実費支給を後払いで実施するのでご協力願いたいとの依頼があった。費用については領収書の提出をお願いした。

④新しい副会長及び常任幹事について承認を行った。
新副会長 平田 雅利(34回)
新任幹事 廣田 克己(38回)

平成20年度会計収支決算書
(平成20年4月1日～21年3月31日)

1. 経常費	単位 円	
(収入の部)	決算額	
前年度繰越金	3,617,293	
入会金	3,875,000	
小計	7,492,293	
会費		
新卒者終身会費	10,605,000	
既卒者終身会費	707,500	
小計	11,312,500	
受取利息	48,055	
雑収入	0	
収入の部合計	18,852,848	
(支出の部)		
事業費		
卒業生懇親会費	647,753	
小計	647,753	
松茶会報等発行		
印刷・制作費	983,850	
発送費	884,965	
「茯苓」発行費	441,000	
小計	2,309,815	
支部助成		
支部運営助成費	857,474	
支部報発行助成費	240,000	
支部強化助成費	0	
小計	1,097,474	
母校支援事業		
教育振興資金助成費	1,000,000	
教育事業後援費	200,000	
松茶会奨学金基金	1,000,000	
教育研究大会助成費	100,000	
小計	2,300,000	
在学生支援事業		
学園祭助成費	50,000	
課外活動助成費	170,000	
県人活動助成費	0	
卒業記念品費	713,590	
小計	933,590	
事業費合計	7,288,632	
運営費		
議費	206,460	
旅費・交通費	3,122,330	
職務通信費	211,000	
通信用品費	122,250	
備品印刷費	517,939	
消耗品費	218,820	
印刷品費	70,904	
消耗品費	20,000	
謝礼金	37,100	
手雑料	33,180	
小計	4,559,983	
松茶会基金		
周年事業積立金	1,000,000	
積立金	3,501,000	
小計	4,501,000	
予備費	59,000	
松茶会基金・予備費合計	4,560,000	
支出の部合計	16,408,615	
(収支残高)	2,444,233	

二松學舎大学学長就任挨拶



学長 渡辺 和則

4月1日に学長に就任しました渡辺和則でございます。今回は、これから二松學舎大学の進むべき方向について私の基本的な考えを皆さんに表明したいと思っております。

私は「二松學舎大学は学生を大切にす大学である」ということをモットーにしたいと考えています。学生には、質の高い基礎的学問を

修得し、物事を自律的にじっくりと考え、冷静に状況判断する視点をもつ人に成長してもらいたいと思っております。そのためには大学は質の高い基礎的学問を提供できる態勢になければなりません。そこで私は特に40歳代以下の教員に対しては年間2本の論文の執筆を義務付け、全教員に対しては本学の学生に合った授業教材の開発を提案しています。また科学研究費への申請も強く奨めています。キャンパスに一步入れば、活発な教育研究活動が行われていると

修得し、物事を自律的にじっくりと考え、冷静に状況判断する視点をもつ人に成長してもらいたいと思っております。そのためには大学は質の高い基礎的学問を提供できる態勢になければなりません。そこで私は特に40歳代以下の教員に対しては年間2本の論文の執筆を義務付け、全教員に対しては本学の学生に合った授業教材の開発を提案しています。また科学研究費への申請も強く奨めています。キャンパスに一步入れば、活発な教育研究活動が行われていると

平成21年度会計収支予算書

(平成21年4月1日～22年3月31日)

1. 経常費	単位 円
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	2,444,233
入会金	3,915,000
小計	6,359,233
会費	
新卒者終身会費	10,500,000
既卒者終身会費	500,000
小計	11,000,000
受取利息	40,000
雑収入	0
収入の部合計	17,399,233
(支出の部)	
事業費	
卒業生懇親会費	700,000
小計	700,000
松茶会報等発行	
印刷・制作費	1,000,000
発送費	900,000
『茯苓』発行費	500,000
小計	2,400,000
支部助成	
支部運営助成費	1,500,000
支部報発行助成費	300,000
支部強化助成費	200,000
小計	2,000,000
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	200,000
松茶会奨学金基金	1,000,000
教育研究大会助成費	100,000
小計	2,300,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	180,000
県人会助成費	300,000
卒業生記念品費	800,000
小計	1,330,000
事業費合計	8,730,000
運営費	
会費	230,000
旅費	3,120,000
通費	230,000
交通費	160,000
信品費	500,000
印刷費	250,000
消耗品費	100,000
弔礼費	50,000
札数	100,000
金料	60,000
費	50,000
謝手雑	50,000
運賃	4,850,000
松茶会基金	
周年事業	1,000,000
積立	2,700,000
金立	3,700,000
小計	3,700,000
予備費	119,233
合計	17,399,233

平成21年度二松學舎大学

ホームカミングデーを終えて

松茶会常任幹事 井上 和男

この行事は5年前から実施され、今回で5回目となる。3年前から、卒業後50年以上になる卒業生、卒業後45年、40年、35年というように5年毎に区分し、その期の卒業生をメインとして案内状を送付するという方法を取っているが、

それら以外にも毎年のように、このホームカミングデーで先生や先輩方に会うのを楽しみに毎年参加しているという方もいて、この催しも年を追う毎に盛大になってきている。当日は本学吹奏楽部による演奏会を皮切りに、本学名誉教授石川忠久氏による講演が中洲記念講堂にて行われた。「三島中洲の人と詩について」

に粉骨砕身努力する所存です。松茶会の皆さんのご協力を心よりお願い申し上げます。

講演会終了後、開会式が行われ渡辺学長、大山理事長、神津松茶会長の順にそれぞれ挨拶があった。大学の現況と新しい時代に向けて本学の在るべき姿について語られる言葉に、一様にうなずく卒業生たちの表情が印象に残る。その後、会場を本館13階の多目的ホールに移して懇親会が行われた。懇親会には、本学名誉教授の先生方も多数参加され、卒業生との再会を喜び、昔話を花を咲かせていた。

を演題とし、中洲師の詩を紹介しつつその人となりについて詳しい解説がなされ、会場に詰めかけた卒業生たちの耳目を集めていた。

講演会終了後、開会式が行われ渡辺学長、大山理事長、神津松茶会長の順にそれぞれ挨拶があった。大学の現況と新しい時代に向けて本学の在るべき姿について語られる言葉に、一様にうなずく卒業生たちの表情が印象に残る。その後、会場を本館13階の多目的ホールに移して懇親会が行われた。懇親会には、本学名誉教授の先生方も多数参加され、卒業生との再会を喜び、昔話を花を咲かせていた。

ホームカミングデー写真集



また、ホームカミングデーに合わせて、卒業生及び在校生による「作品展」「企画展」も催された。「作品展」には、書・写真・彫刻等の力作が出品・展示され多くの参加者た

ちの目をくぎ付けにしていた。「企画展」では、大学資料展示室において「創立者中洲・三島毅と二松學舎」と題して大学の保管する資料の展示の他に、卒業アルバム・当時の

入学案内等が並べられ、参加者も当時の思いが去来するの懐かしそうにそれらに見入っていた。



平成21年度支部総会報告

◇岩手県支部

支部長 宮本 義孝

平成21年度の松茶会岩手支部総会は、7月26日(日)午前十一時から、「ホテルシテイプラザ北上」で開かれた。出席者は、昨年に引き続き、畑功、小山尊史、宮本義孝、それに今年は、瀬川孝三、目黒泰の両氏も加わった。残念なことに派遣依頼を会



長宛に提出したのだが本部からはどなたもお見えにならなかった。また、連絡もなかった。総会では、活動の一環である会報のことが話題に出た。昨年度は、九回発行したが、その内二回は「支部結成の頃」と題して畑さんに書いてもらった。好評だった。今後は他会員の文章も多く載せよう、と云うことになった。

それから、郵送料金の負担増について、何号かを一括して送ったり、送付は会費納入者を対象にすべきだ、と云うようなことも出た。その他、来年度の支部総会の日時と開催場所を決めた。また、今年役員改選の年に当たっていたが、これは、宮本が支部長、監事に小山氏が再選された。

最後に、個々に呼び掛けを増やし、活動に参加する会員を多くしていこう、と云うことが確認された。総会終了の後、北上川の流

れと、国見山と山々の連なりが一望に見渡せる部屋に席を移して懇親会を持った。まず、何よりもこの一年間無事で再会できたことを喜びあった。それから他会員の情報を交換しあい、また自分の現在や学生の頃の思い出話を花を咲かせた。

総会や懇親会への出席は、確かに負担に感じられる。が「今年も喜んで参加させて頂きます」と小山さんの返信にもあるように、出席してみられるようになる。自分にとってそれがかけがえのないものになるには、サントリーテグジュベリの言うように、自分の時間を、或る時、無駄に使わなければならないのだろう。

私個人についても、支部会報は30号を超えたが、支部長という立場に置かれていなくなったら、大学生活のこと、友人や先生方との交わりを、多分このように綴って残すことはしなかっただろうと思う。今年には雨が多く、眼下には水嵩を増した北上川が勢よく流れていた。我が人生の残

された時間も、このように押し流されていくのだろう。だが、その中に在って、二松學舎につながったという縁で人と出逢い、束の間なりともお互いの心を交わしあい楽しい一時を持ったことは、やはり有り難しといふべきなのだろう。

◇山形県支部

支部長 齋藤 裕

去る7月4日、松茶会本部より緑川佑介事務局長のご出席をいただき、酒田市在住者中心ではありましたが会員13名で、初めての支部総会を開催しました。緑川事務局長からは、本年7月に完成予定の九段3号館のことや、母校の現状等のお話がありました。支部長からは、総会開催に至るまでの経過の報告、今後の支部活動についての説明・提案を行いました。その後の懇親会では、学生だった頃の思い出を中心に語らい、和やかな雰囲気の中、またの再会を期して閉会しました。

総会の報告

1 日時・場所
7月4日(土)
17時30分～21時00分
酒田市本町「富重」

2 参加者

緑川佑介(二松學舎松茶会事務局長)

樋口栄寛(文39・山形市)

伊藤(旧姓 橋本)洋子(文41・酒田市)

齋藤(旧姓 生田)智子(文48・酒田市)

齋藤善明(文48・酒田市)

原田洋一(文52・山形市)

出嶋睦子(文53・酒田市)

大坂(旧姓 伊藤)禎子(文57・鶴岡市)

佐藤 悟(文59・米沢市)

高橋(旧姓 川崎)敬子(文63・酒田市)

事務局長

齋藤 裕(文38・酒田市)

杉原雅彦(文50・酒田市)

今野紀生(文55・酒田市)

高橋勇一(文64・酒田市)

3 総会開催までの経過

※20数年ほど前、山上一郎氏

(米沢市)から齋藤が支部

長を引き継ぐ。

※20年ほど前、酒田東高校公

長を引き継ぐ。

開講座に、当時二松學舎大
学佐古純一郎学長を齋藤が
お招きし、酒田市文化総合
センターでご講演をいただ
く。その折り、10数名の酒
田在住者中心に、先生を囲
んでの懇親会を行う。

※2008年、酒田地区高校
教諭の会員から、松苓会開
催の声が出る。そして、本
年の総会開催に至る。

※本年の総会の位置づけ
これまで総会を開催したこ
とがなかったため、今後の
支部活動の足場を固めるた
めの第一歩と位置づけ、呼
びかけの範囲を酒田在住者
中心に限定することとする。

4 総会の報告について
※今総会の報告を会員全員に
送付する。送付の際、会員
名簿の点検・整理のための
はがきを同封する。

※会則・財政などについては、
今後事務局で検討し、提案
するものとする。

※支部を四地区に分け、代表
者を置く。当面各地区総会
の開催に向けて取り組む。
(松苓会の足場固め)
支部総会については、地区
代表が相談して決めること

とする。

各地区の代表者名

村山地区

代表 樋口 栄寛

置賜地区

代表 原田 洋一

代表 佐藤 悟

最北地区

代表 未定

代表 鶴岡

代表 田川

酒田地区

事務局 齋藤 裕

事務局 杉原 雅彦

高橋 勇一

今野 紀生

支部長 町田 哲夫

◇埼玉県支部

埼玉県支部では平成21年3
月8日(日)、ご来賓として
本部から松田存副会長をお迎
えし、川越市東武ホテルを会
場に平成20年度支部総会を開
催しました。

総会では、①会則について
②役員改選について③会計報
告が審議されました。

松苓会埼玉県支部の復興に
尽力された、木村誠次支部長
の転居に伴い、新たに町田哲
夫が支部長となりました。

総会終了後、懇親会が行わ
れ、参加各会員からの近況報
告、今後の支部のあり方につ
いて活発な意見交換が行われ
お開きとなりました。

埼玉県は、在校生・卒業生
の多い県であり、先行各支部
の情報収集し、充実した支
部活動を展開してまいります。

来賓

本役員

松田 存副会長

会 員

小林 公雄 (38)

木村 誠次 (39)

中居 功一 (39)

佐藤 修 (41)

本田 和成 (42)

町田 哲夫 (42)

八木 直也 (42)

五十嵐 清 (44)

柴田 京子 (45)

青木 一弥 (47)

三好 行雄 (53)

三船 芳明 (54)

小西 明德 (60)



◇千葉県支部

平成21年度支部総会が、8
月22日(土)午後3時から、
16名(来賓も含む)の出席者
により、昨年度と同様千葉市
の珈琲喫茶「ボンヴィル」に
おいて開催された。

会場の「ボンヴィル」は、
千葉地区会員でもある竹内恵
子さん(34回卒)の御好意に
より、昨年に引き続き再度
御提供戴いた。
司会は小林事務局長が担当
し、始めに辻副支部長から開
会の挨拶があり、兼ねて支部

長代理として出席した、平成
21年度松苓会定期総会の内容
についても説明があった。

続いて、大山支部長の挨拶
があり、支部活動の活性化の
為に、各地区会開催の強化。

大学の近況報告として、九段
集約についてと、特に九段3
号館竣工についての説明があ
った。

来賓の東京支部長木村正雄
氏、神奈川県支部長廣田克己
氏からお言葉を頂いた。

次いで、議長に、大山支部
長、書記に山口事務局次長を
選出した。

議事に入り、審議は、平成
20年度事業報告及び収支報告・
監査報告が担当者から行われ、
其れ其れ承認された。収支報
告、監査報告では、事務局の
不手際の指摘が出席者よりあ
った。

審議の中で、出席者から、
支部活性化の為、支部報の重
要性が指摘され、発行部数の
増部、送付先を極力増やすよ
う要望があった。

次に、支部役員、地区長の
改選に移り、支部長候補とし
て支部規約第8条により、大
山支部長が推挙した辻将一副

支部長と、立候補を表明した
浅井昭治氏の2名があり、
各々、立候補の決意を述べた
あと、出席者の無記名投票の
結果、辻将一氏が新支部長に
選出された。

又、役員会、友好支部への
交通費は実費支給されること
が承認された。

前田副支部長の閉会の挨拶
により終了した。

総会終了後、同じ「ボンヴ
イル」において懇親会が行わ
れ、今回、橋本浩氏(国政5
回)、畑中一輝氏(国際政治
経済学部4年生)等若手の参
加があつて盛り上がった。

尚、今年度支部総会は、松
苓会本部のご好意により本部
HP上に開催案内を掲載し、
又、千葉県在住の在校生にも
支部総会参加を呼びかけ、九
段・柏キャンパスにも開催案
内の掲示を行った。

平成21年度支部総会出席者
木村 正雄(東京支部長)
廣田 克己(神奈川支部長)
大山 徳高(36回・支部長)
辻 将一(45回・副支部長・
千葉地区長)

前田 康晴(49回・副支部長・
香取・海匝・山武地区長)

小林 憲一(38回・事務局長・
東葛地区長)

山口 浩司(国政3回・事務
局長)

簡野 泉(54回・会計監査)
山口 朗(62回・長生・夷
隅地区長)

浅井 昭治(専18回)

竹内 恵子(34回)

今城 昭二(41回)

今城 照子(43回)

林 圭子(51回)

橋本 浩(国政5回)

畑中 一輝(国際政治経済学
部4年生)

千葉県支部役員会

日時 平成21年8月22日(土)
14時

場所 千葉市

珈琲喫茶「ボンヴィル」
出席者 大山支部長他5名

議題
1 支部長挨拶

2 平成21年度支部総会につ
いて

3 今後の活動について

4 その他

千葉県支部役員会

(長生・夷隅地区で役員会)
平成21年度、松苓会千葉県
支部役員会が、平成21年5月

10日(日)、11時30分より、
長生郡長柄町の『生命の森リ
ゾート』和食処 翠州亭に於
いて、6名の出席により開催
された。

始めに、大山支部長より挨拶
があり、前学長の今西先生
が、5月1日にご逝去され、
卒業生を中心に御別れ会を予
定している事、新学長に渡辺
前副学長が就任等の報告があ
つた。

平成21年度総会については、
辻副支部長より、開催場所と
して、昨年の開催場所であつ
た千葉市の珈琲喫茶「ボンヴ
イル」が、どの地区からも交
通の便が良く、恒常的な開催
場所として提案があり、了承
された。開催日時は、8月22
日(土)が予定された。

今後の活動については、地
区の集いの開催については、東
葛地区開催、上総・安房地区
開催、香取・海匝・山武地区
開催の三案が検討された。支
部報第13号は9月の発行が決
まった。

支部役員・地区長の改選に
ついては、辻・前田両副支部
長を中心に、大山支部長と話
を進めることとなった。

出席者(敬称略)

大山 徳高 大学 36

副支部長(千葉地区長)
辻 将一 大学 45

副支部長(香取・海匝・山武
地区長)

前田 康晴 大学 49

事務局長(東葛地区長)
小林 憲二 大学 38

会計監査
簡野 泉 大学 54

長生・夷隅地区長
山口 朗 大学 62

◇東京支部

再発足25周年記念総会報告
平成21年7月12日(日)、

大森東急インにおいて、21年
度総会が開催された。今年
は昭和59年の再発足から25周年
を迎えたことを記念し、学祖
三島中洲師の縁の地でもある
大森での開催となった。

総会に先立ち、正午から役
員会が行われ、役員の総会に
おける業務分担等を決定。12
時30分からの常任幹事会にて、
議題の検討と任期満了に伴う
支部長候補者の選出が行われ

た。検討の結果、支部長候補
者として木村正雄氏(25期)
を再選した。

午後2時、総会開始。議事
に先立ち、逝去された方々(萩
谷朴名誉教授・今西幹一前学
長・佐佐木顧問令夫人志津子
様)への黙祷が捧げられた。
木村支部長による開会挨拶の
後、議長に大山由美子氏(47
期)を選出し、議事に入った。

一号議案の「平成20年度活
動報告・決算報告」を大津幹
事長と菅原事務局長が行った。
ついで菅根監事による監査報
告が行われ、いずれも承認さ
れた。

二号議案の「平成21年度活
動案・予算案」についても承
認された。

三号議案の任期満了に伴う
役員改選については、支部長
及び監事の選出について検討
された。

まず、柴副支部長から、常
任幹事会において支部長に木
村正雄氏(25期)を選出した
との説明があり、全会一致で
承認された。

監事については、畠山常任
幹事から、菅根順之氏(24
期)、新井節子氏(33期)2

名の推薦があり、こちらも承認された。新支部長に再選された木村正雄氏の就任挨拶の後、閉会した。

午後3時から、第九回生涯教育講座として、渡辺和則学長による講演会が「本會有の危機・日本経済の今後の動向」と題して行われた。サブタイトル「イムロン問題の背景と日本経済への影響をまた今後の日本経済の動向について等、興味深い内容の講演会となった。

午後4時から、再発足二十五周年記念祝賀会に入った。今回も、神奈川県支部 廣田克己支部長を始めとして、関係多数の参加を得た。

木村支部長の挨拶の後、神津賢一郎松苓会長による乾杯の発声で開会。今年は参加者によるカラオケ大会等もあり、大いに盛り上がった祝賀会であった。(事務局)

平成21年度支部総会出席者
ご来賓(敬称略)

- 会長 神津賢一郎
- 神奈川支部長 廣田 克己
- 同事務局長 片桐佐知子
- 附属高校長 橋本 喜一
- 教授 田村 紀之
- 名誉教授 呉 英元

◆宮崎県支部

支部長 宮崎 宣幸

8月22日(土)午後6時より、松苓会宮崎県支部総会を「雲の平」で実施しました。案内状40名発送しましたが、住所不明で5通返送されました。

諸般の都合で参加者が少なく、出席者は高鍋東中学校の小野浩司さん、宮崎大学大学院教員宮元芳幸さん、高鍋高校教諭の後藤祐子さん、それに私の4名でした。資料、会の写真等は同封の通り。食事しながら、松苓会総会の報告、大学の状況、本県出身者の現状、今後の対策、それに



各人の職場の近況等の情報交換を行いました。

特に本県出身者が減少傾向にあることについて対策を協議しましたが、やはり二松學舎大学としての魅力ある特徴を出さなければ難しいのではないかと意見が多く出されました。30代、40代以上は大半が教職に就いており、卒

信濃毎日 新 聞

2009年(平成21年)8月24日(月曜日)

地域

佐久

二松学舎大書道部
御代田で合宿
書家・天来学ぶ

二松学舎大学の書道部が23日、佐久市出身で「現代書道の父」と呼ばれる書家、比田井天来(1872~1939年)について学ぶため同市を訪れ、市天来記念館などを巡った。1年生から4年生まで34人が参加し、26日まで北佐久郡御代田町で合宿する。

同市望月の同記念館では、同大文学部の源川進教授(62)が天来や弟子の作品を前に、作風や筆遣いなどを説明。天来が師匠の臼下部鳴鶴に自作の漢詩の添削を依頼した書状を目にすると、学生たちは熱心に見入り、メモを取っていた。

御代田町出身の3年生猿田麻



天来記念館で源川教授(左)の説明を聞く学生

衣さん(20)は「高校生のころも記念館に来たけれど、大学で書道を学んでから、また違う見方ができた」と話した。この日は、合宿先の御代田町の旅館で一般も参加した源川教授の講義や揮毫の実演もあった。

天来は1898(明治31)年に同大に入り、漢文で書いた書物などを学んだ。源川教授は「20歳前後の若いころに、天来の生々しい草稿などを見て衝撃を受けてほしい」と話していた。

業生が国語教員採用試験に数多く合格することが喫緊の課題ではないかということに結論付けられました。私自身もずっとそう感じていましたが皆さんも同じ考えのようです。大学当局におかれましても、教員採用試験合格にかなりの対策を講じておられますが、一層の御努力を

御願いたします。そうでない、九州の宮崎からわざわざ二松學舎大学まで受験者を増やすのは難しいと考えます。参加者は少なかったけれど、充実した一時を過ごせたと感じています。今後とも御支援、御指導を宜しく御願いたします。